

前線に伴う大雨よる現地調査 (福岡県みやま市)

令和3年8月前線に伴う大雨により被災した福岡県みやま市において、斜面の土砂崩れが発生し市道の通行止が発生。みやま市より支援要請があったことから、現地状況の詳細な把握及び対応策の検討のため、TEC-Doctorを派遣し現地調査及び助言等を実施した。

出席者:九州大学大学院 笠間教授、福岡県、みやま市

● TEC-Doctorによる調査(令和3年8月21日)

被災の状況



現地調査状況



TEC-Doctor
九州大学大学院 笠間教授

関係機関へ説明状況



【今回の災害について】

- 1.大雨により、みかん畑の中の園路(急勾配で簡易なCO舗装)を雨水が流れ、合流地点で水があふれて、法面を洗い流したものと考えられる。
- 2.現在、法面は動いていない。早急に処置をしなければならない現状ではない。
- 3.市道は土砂が堆積しているだけで、市道の被災はないと思われる。

【対策方法について】

- 1.応急復旧として、
 - ・崩落土砂を撤去し、大型土嚢を(3段程度)設置して通行可。
 - ・法面には、ブルーシートを設置しておくこと。
 - ・通行には雨量規制を設けて、大雨の際は通行止めを検討した方が良い。
 - ※被災した雨量の半分程度で通行止め 等
 - ※関係する集落は、高齢者とのことなので「雨が降ったら通らないで」との、呼びかけも効果あり
- 2.本復旧に関して
 - ・ボーリング位置や復旧範囲について検討すること。
 - ・表面水の処理方法が一番大事 ※水が集まる箇所は、柵を設けてコルゲート管での縦排水 等